

## 敬和学園高等学校

所在地：新潟県新潟市

生徒数：496名

国語科 西 雅文 様  
鈴木 明香 様

## 言語能力育成に関する課題感と取り組み

## 【生徒の文章力の現状】

- 話し言葉と書き言葉を混同した文章や、一文が冗長な文章を書いてしまうなど、文章表現の基本が身につけていない。
- 意見文や小論文において、事実と意見が区別されておらず、何が自分の意見・主張なのかが明確でない文章が散見される。
- 文章を書く際に読み手のことを意識しておらず、具体性や分かりやすさの点で、伝わりにくい文章となっていることが多い。

## 【教員の課題感】

- 文章の書き方を授業で扱っても、なかなか定着しない。また、単調な練習を繰り返すと生徒が飽きてしまい授業についてこない。どのように文章力を身につけさせるか、試行錯誤している。
- 文章力は社会で必要な力である。また、昨今の入試（学校推薦型選抜、総合型選抜）では、表現力が重視されている。系列大学への進学に際しても小論文が課せられるようになり、文章力の育成は重要性を増している。

## 【「言語技術」を導入】

- 表現の基本的な型や、相手に分かりやすく伝えるための技術を身につけさせることを目的に、つくば言語技術教育研究所の「言語技術」を教育活動に導入した。国語科のほか、進路指導における小論文指導や、「総合的な探究の時間」の活動においても言語技術の考え方を取り入れた。
- 国語科では、「国語表現」（高校2年生）、「国語演習」（高校3年生）の時間に、言語技術を軸に据えて取り組んだ。「国語表現」では基礎を身につけることに主眼を置き、それを踏まえて「国語演習」では進路や社会を意識した発展的な内容を扱うこととした。

## 【「国語表現」での文章検コンテンツの活用】

- 文章表現の基礎を身につけさせるため、前期に『7日でチャレンジ文章作成ワーク』での指導を行い、後期には「書くこと」の指導と評価に文章検の意見文作成問題を活用した。

## 【取り組みの効果】

- 文章表現の型を身につけることで、他の教科でのアウトプットの質の向上に繋がった。

## 文章検コンテンツの導入形態

## 【教材による指導】

- 教材：『7日でチャレンジ文章作成ワーク』  
「文章読解・作成能力検定」の過去問題
- 指導時間：国語表現（2単位）
- 対象学年：高校2年生（全員）



## 【検定受検】

- 対象級：準2級、3級、4級
- 対象者：全学年（希望者）

【参考】2022年度「国語表現」（2単位）の指導計画表（一部）

月	週	1回目	2回目	提出物、評価	検定
8、9	1	マイニュース記事（大修館教P46～）	〃	記事提出	
	2	グループ発表	POP作成		
	3	POP作成②	発表①		
	4	発表②	文章検過去問	POP発表評価	
	5	文章検過去問、答え合わせ			
10	1	意見文の書き方、新しい意見文	意見文作成①		
	2	意見文作成②	意見文作成③	意見文	
	3		★定期テスト③		10/21 漢検②
	4	意見文共有	資料の読み解き①		
11	1	資料の読み解き②	資料小テスト	資料小テスト	
	2	文章検過去問	文章検過去問		11/11 文章検

11月11日に文章検の受検機会を設定し、9月～10月の授業の中で文章検の問題を活用した指導を計画。

※2022年度の実績

# 「国語表現」における文章検コンテンツの活用（詳細）

## 【1】『7日でチャレンジ文章作成ワーク』の活用：「国語表現」の導入単元として

### 【導入のポイント】

・『7日でチャレンジ文章作成ワーク』は文章表現の基礎的な技術習得に焦点を当てた内容となっており、進路指導の教員や国語の教員が生徒の書く文章に関して感じていた課題感に合致していた。

・「5W1Hを意識する」「事実と意見を分ける」「伝える順番を工夫する」等、教材の内容が言語技術で扱われる内容とも整合していた。

### 【指導の概要】

・「国語表現」の導入・基礎固めとして年度始めの単元で活用した。

・授業1コマで1章分の内容を扱った。テキストを電子黒板に映しながら、授業を展開した。

### 【成果と今後の課題】

・各章のテーマが漫画によって導入されるため、章ごとの課題設定を生徒に分かりやすく伝えられる。そのため、生徒がスムーズに授業へ入っていくことができた。また、読み手に伝わりにくい文章が例示され、その改善点を考えるという活動が、自分の文章を内省するきっかけとなった。

・教材で学んだことを他の場面で実践できるようになるには時間がかかる。別の単元で文章を書く際にも『7日でチャレンジ文章作成ワーク』を参照させ、学んだことを振り返る機会を作る等、定着のための工夫が必要である。

1章	1文を短く
2章	つながりのことば
3章	5W1H
4章	話しことばと書きことば
5章	事実と意見
6章	意見の伝え方
7章	伝える順番

『7日でチャレンジ文章作成ワーク』の章構成

## 【2】文章検の意見文作成問題の活用：「書くこと」の指導と評価として

### 【導入のポイント】

・意見文の問題で課される「事実・意見・理由の3段落構成で意見文を作成する」「事実を具体的に記述する」といったことは、言語技術の授業や『7日でチャレンジ文章作成ワーク』で学んだことの定着を確認する機会としても位置付けられる。

・「書くこと」の授業は、指導のポイントや評価の観点を教員間ですり合わせる 것이難しい。文章検の問題は各級ごとに審査ポイントが明確に示されており、指導・評価の教員間でのすり合わせに役立つ。

・検定問題を解かせることで、授業を通して生徒ができるようになったことを明確にすることができる。

### 【指導・評価の概要】

・文章検3級の意見文作成問題を年間で3回（3テーマ分）扱った。

・生徒には採点の観点（※右表）を授業の中で提示した上で意見文を作成させ、その観点到基づいて教員が採点を行った。

・「書くこと」の力を評価する機会の一つとし、得点は「国語表現」の成績にも反映した。

チェックポイント	配点
構成：事実・意見・理由の3段落になっており、事実／理由が意見に結び付くものになっているか	20
第1段落：事実は具体的で、イメージが思い浮かぶようなものであるか	10
第2段落：自分の意見が、はっきりと示されているか	10
第3段落：意見に納得できるように、理由が説明されているか	10
表記：誤字脱字などのミスがないか	10
表現：語句の誤用、文法の誤りなどのミスがないか	10

活用した意見文の採点表  
(文章検3級の問題見本より)

## 【3】文章検の受検：文章検の受検機会を後期に2回設定

### 【検定実施の効果】

・検定合格を目標として学習することが、生徒の学習意欲の向上につながった。

・受検者の80%超が検定に合格した(合格者は終業日に表彰)。検定合格という成果は生徒の自信にもつながった。